

2019年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社

常務執行役員

北畠 一明

2018年8月8日

概ね今年度のガイダンスに沿ったスタート

(億円)

	17年度Q1	18年度Q1	増減率	為替除く 増減率
売上収益	1,393	1,430	+3%	+2%
売上総利益	759 (54.5%)	799 (55.8%)	+5%	+4%
一般管理費	402 (28.9%)	435 (30.4%)	+8%	+8%
研究開発費	85 (6.1%)	113 (7.9%)	+33%	+34%
その他収益費用	12	8	-	-
営業利益	284 (20.4%)	259 (18.1%)	-9%	-11%
調整後営業利益	321 (23.0%)	305 (21.4%)	-5%	-6%
税引前利益	282 (20.2%)	234 (16.4%)	-17%	
当期利益	203 (14.6%)	181 (12.6%)	-11%	

期中平均レート	USD	111円	109円
	EUR	122円	130円

- 売上収益 : 公定価改定や出荷遅延の影響を受けた心臓血管に代わり、ホスピタル・血液が牽引
- 調整後営業利益 : 費用の進捗が遅かった17年度Q1と比べ、18年度Q1は計画通りの進捗
- 税引前利益 : 前年同期の為替差益 (2億) に対し、今年度は差損 (23億)
- 当期利益 : 為替差損を除けば計画通りのレベル

調整後営業利益：調整額

IFRSの営業利益より、下記項目を調整した利益

- ① 買収により取得した無形資産の償却費
- ② 買収関連費用や日本基準の営業外・特別損益等に含まれる一時的な損益

(億円)

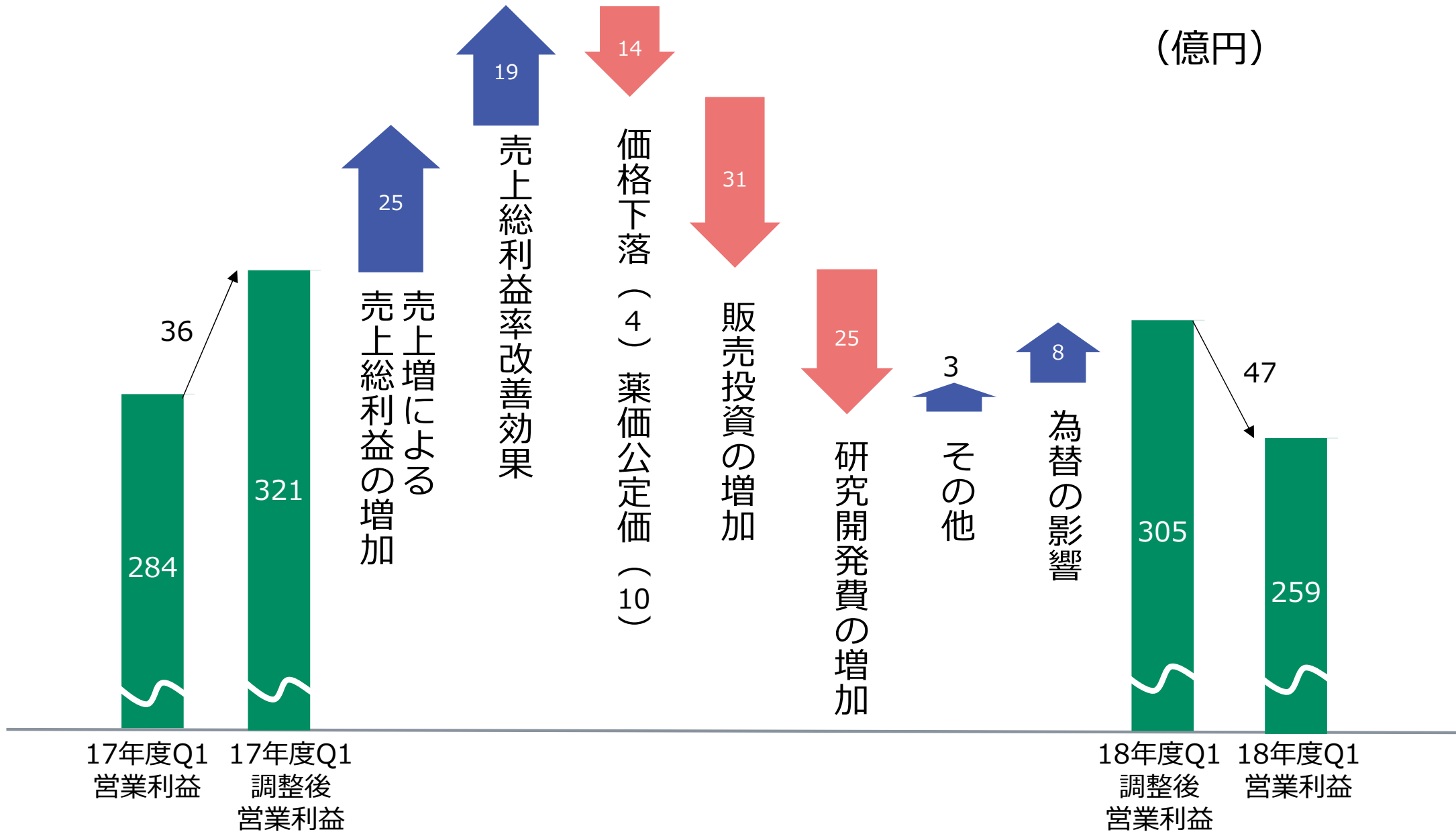
	17年度Q1	18年度Q1
①買収無形資産の償却費	38	38
②一時的な損益 ※	-2	9
調整額	36	47

※調整項目

- 買収関連費用
- 買収無形資産償却費
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整後営業利益増減分析 (IFRS)

(億円)



地域別売上収益

■ 18年度Q1
■ 17年度Q1

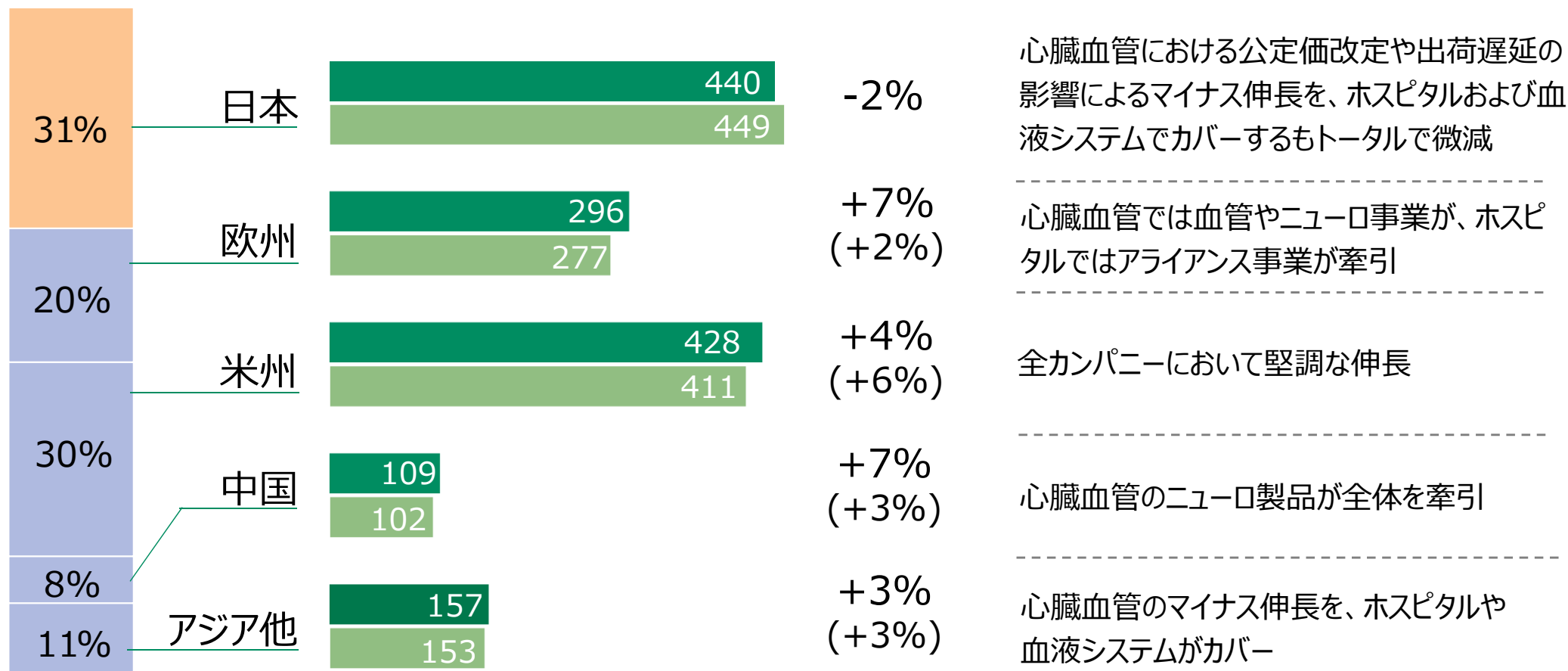
売上収益

100% = 1,430億円

売上収益前年比較

金額(億円)	増減率	コメント
--------	-----	------

() 内は為替影響除く

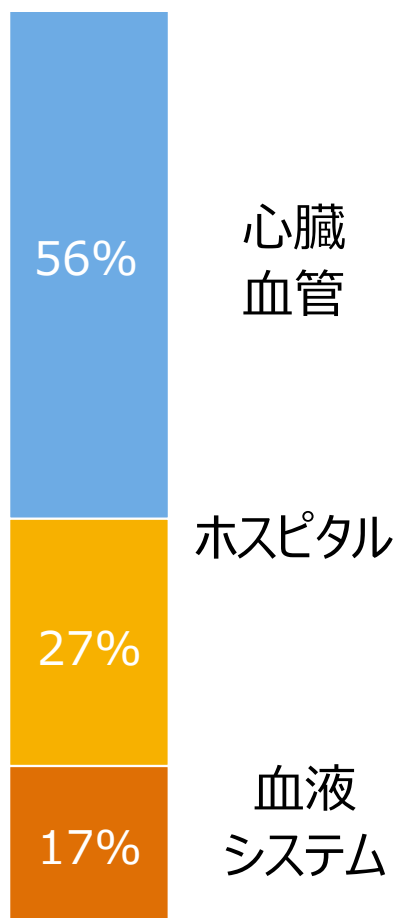


カンパニー別売上収益

■ 18年度Q1
■ 17年度Q1

売上収益

100% = 1,430億円



売上収益前年比較

金額(億円)	増減率	コメント
() 内は為替影響除く		
心臓血管 18年度Q1: 795 17年度Q1: 791	+1% (0%)	国内における公定価改定や出荷遅延の影響によるマイナス伸長を、海外がカバーし、トータルで微増
ホスピタル 18年度Q1: 388 17年度Q1: 369	+5% (+5%)	国内は全般的に堅調に推移。海外は欧州を中心にアライアンス事業が牽引
血液システム 18年度Q1: 246 17年度Q1: 233	+5% (+5%)	血液センター向け製品が、中南米やアジアなどの新興国で二桁伸長

心臓血管：上期のガイダンスに沿った減益

(億円)

	17年度Q1	18年度Q1	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

() 内は為替影響除く

売上 収益	791	795	+1% (0%)	TIS : 国内の公定価改定や出荷遅延の影響。	
				カーディオロジー治療製品が減少	-10
				ニューロ : 二桁伸長を継続	+12
				CV : 再出荷の心肺装置が米国で堅調	+1
				血管 : ボルトン社買収の影響が一巡	+2
調整後 営業 利益 (率)	212 (27%)	199 (25%)	-6% (-7%)	TISやニューロにおいて、一般管理費や研究開発費の進捗が遅かった17年度Q1と比べ、18年度Q1は計画通りに進捗	

ホスピタル：収益性を維持しながら着実な増益

(億円)

	17年度Q1	18年度Q1	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

() 内は為替影響除く

売上 収益	369	388	+5% (+5%)	医療器	: 国内は輸液ライン等が牽引。海外はアジアにおいてポンプが堅調に推移	+5
				医薬品	: 輸液剤の売上が好調だった事に加え疼痛緩和や癒着防止材が伸長	+5
				DM・ヘルスケア	: 糖尿関連製品中心に堅調	+1
				アライアンス	: 国内外で好調。20%以上の伸長	+8

調整後 営業 利益 (率)	59 (16%)	62 (16%)	+6% (+10%)	原価改善も寄与し、高い収益性を維持。 堅調な売上拡大による増益	
------------------------	-------------	-------------	---------------	------------------------------------	--

血液システム：R&D費増で減益も、売上は堅調に推移

(億円)

	17年度Q1	18年度Q1	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

() 内は為替影響除く

売上
収益

233

246

+5%
(+5%)

血液センター : 米国は安定成長。

中南米やアジアなどの

新興国で二桁伸長

+11

アフレス治療 : 後継装置への切り替え

+3

調整後
営業
利益
(率)

36

34

-5%
(-15%)

研究開発費の増加 (約6億) に伴い減益

(15%)

(14%)

主なトピックス

全社

- 「イクボス企業同盟」に加盟。多様な働き方を推進（6月）



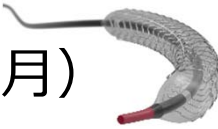
- 静脈可視装置「ベインビュー」を発売（4月）



- 胸部大動脈用ステントグラフト「RelayPro」を欧州で発売（4月）



- 薬剤溶出型ステント「Ultimaster Tansei」、CE認証取得し欧州で発売（4月）



事業

- 米国デクスコム社と提携。持続血糖測定器の日本での独占販売権取得（5月）

- 日本初のスプレー式癒着防止材の開発で高分子学会賞を受賞（5月）



- 日本企業初、下肢用・薬剤塗布バルーン「Kanshas」のCE認証取得（6月）



18年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス		日
心臓	PTCAバルーン		米
	PTCAバルーン		日欧亜
	DES (Ultimaster Tansei)	◎	欧:済み 日亜:下期
ペリ フェラル	ステント (TRI)	★	日米
	PTAバルーン (TRI)	★	日米
	PTAガイドングシース (TRI)	★	日米
	薬剤塗布バルーン	◎ ★	CE取得
脳	中間カテーテル (Sofia EX)		欧米
	アシスト・バルーン		欧米

領域	製品		地域
CV	次世代人工肺	◎	日・米
	次期・血液モニター		欧・米・亜
血管	胸部用ステントグラフト (低プロファイル)	★	済み
	腹部用ステントグラフト (アナコンダ細径)		欧
医療器	静脈可視装置		済み
DM	パッチ式・インスリンポンプ		日
血液	次期・成分採血装置ソフトウェア		欧米亜
	自動製剤化装置・新ディスポ		欧米亜

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

愛鷹工場・出荷遅延の状況

経緯

- 滅菌工程の最適性を評価する手法において、確認すべき事項判明
→ 5月下旬に関連する製品の出荷を一旦停止
- 6月以降、順次出荷を再開しているが、滅菌機毎、滅菌タイプ毎の確認が必要な為、当初の想定より時間がかかっていた
- 8月中に停止以前のレベルまで回復

今後の対応

- 他工場、外部施設の活用による滅菌能力拡大の検討・実施
- 一部の製品において、愛鷹工場から他工場への生産移管を検討

業績インパクト

- 国内：6月から影響を受け、8月まで影響が残る見込み
- 海外：海外工場は通常通り出荷しており、ある程度の在庫もあることから6月までの影響は限定的だが、Q2は相応のインパクトあり

業績予想の修正

通期業績のポイント

- 上期 愛鷹の出荷遅延影響により見直し
- 下期 ガイダンス通り（変更なし）
- 為替レート Q2以降 USD=105円、EUR=130円

(億円)

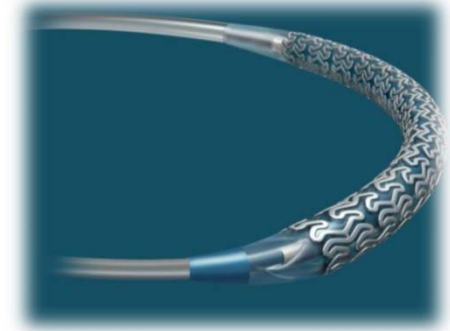
<上期>	売上収益	調整後営業利益	営業利益	当期利益
従来予想	2,930	615	545	395
今回修正予想	2,820	550	480	345
修正額	-110	-65	-65	-50

<通期>	売上収益	調整後営業利益	営業利益	当期利益
従来予想	6,080	1,285	1,145	835
今回修正予想	5,970	1,220	1,080	785
修正額	-110	-65	-65	-50

中国の現地化戦略が進展

Essen Technology社の買収（7月24日発表）

- 中国市場向け薬剤溶出型冠動脈ステント「Tivoli」
- 一時金約140億円＋マイルストーン、手元現金を充当
- DES市場で最大となる中国へ現地生産品で参入。既存製品群やチャネルとのシナジー創出
- 2018年中の手続き完了を目指す



現地合弁会社、腹膜透析液の製造販売承認を取得（8月6日発表）

- テルモとウェイガオ・グループとの合弁会社「ウェイガオテルモ社」
- テルモの技術と療法普及のノウハウ + ウェイガオ社の販売網
- 2018年中に、ウェイガオ社が販売開始予定

参考資料

18年度Q1 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	113 (-16%)	682 (+3%)	213 (+2%)	304 (+7%)	90 (+3%)	75 (-5%)	795 (0%)
うちカテーテル※	84 (-18%)	553 (+3%)	171 (+2%)	235 (+6%)	84 (+3%)	63 (-5%)	637 (0%)
ホスピタル	302 (+4%)	86 (+8%)	21 (+10%)	17 (+5%)	6 (+14%)	42 (+7%)	388 (+5%)
血液システム	25 (+3%)	221 (+5%)	62 (+2%)	106 (+5%)	13 (-1%)	40 (+13%)	246 (+5%)
合計	440 (-2%)	990 (+4%)	296 (+2%)	428 (+6%)	109 (+3%)	157 (+3%)	1,430(+2%)

※ニューロバスキュラー事業含む
() 内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	17年度Q1	18年度Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	200	217	+17	+8%	+8%
販促費	41	45	+4	+9%	+8%
物流費	30	32	+2	+9%	+9%
償却費	34	34	0	+0%	+1%
その他	97	107	+10	+11%	+10%
一般管理費計	402 (28.9%)	435 (30.4%)	+33	+8%	+8%
研究開発費	85 (6.1%)	113 (7.9%)	+28	+33%	+34%
販管費合計	487 (35.0%)	548 (38.3%)	+61	+13%	+13%

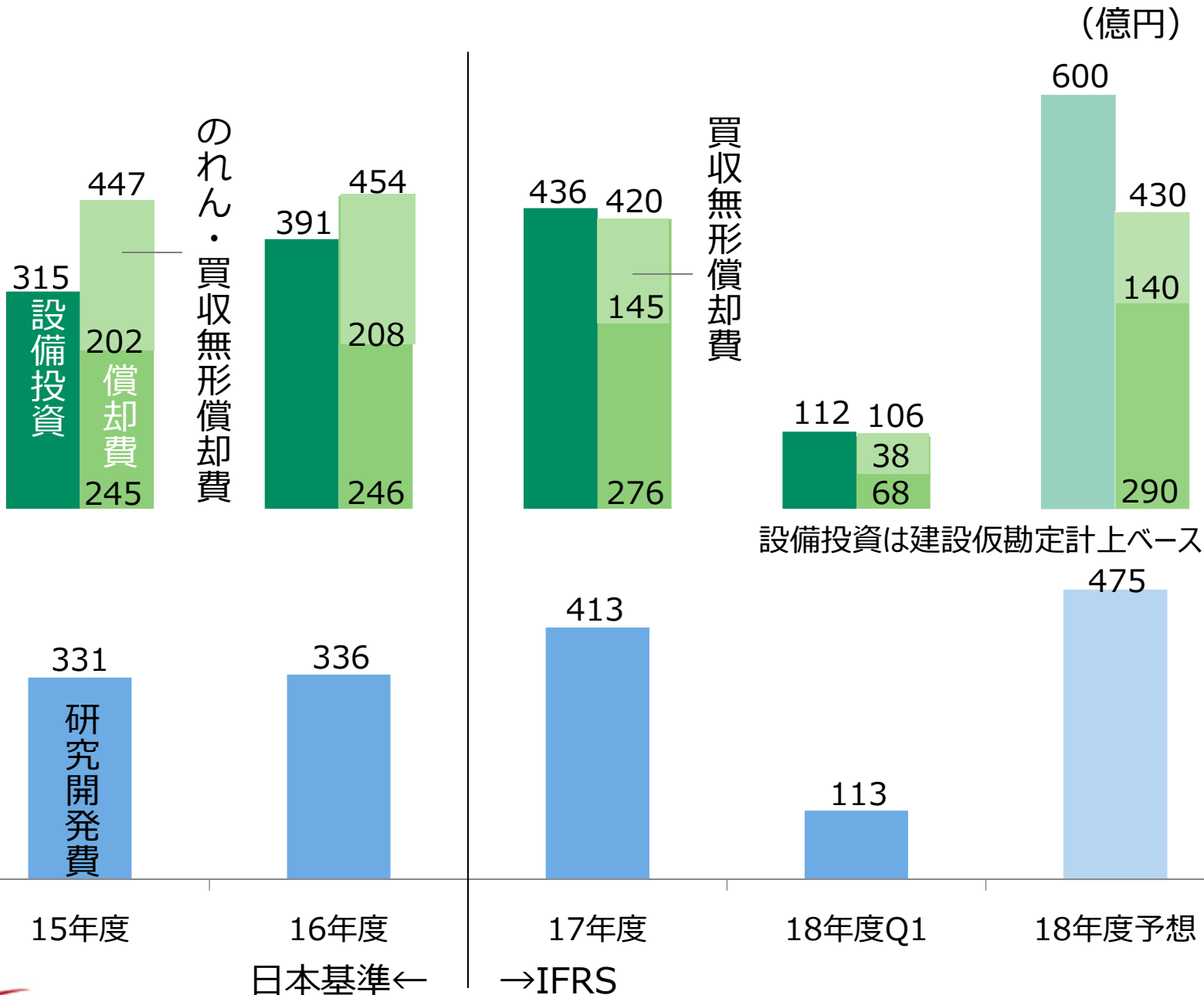
四半期の動き

(億円)

	17年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	18年度Q1 (4-6月)
売上収益	1,393	1,453	1,523	1,508	1,430
売上総利益	759 (54.5%)	795 (54.7%)	832 (54.6%)	807 (53.5%)	799 (55.8%)
販管費	402 (28.9%)	412 (28.4%)	438 (28.7%)	459 (30.4%)	435 (30.4%)
開発費	85 (6.1%)	98 (6.7%)	107 (7.0%)	124 (8.2%)	113 (7.9%)
その他収益費用	12	2	6	- 4	8
営業利益	284 (20.4%)	287 (19.8%)	294 (19.3%)	220 (14.6%)	259 (18.1%)
調整後営業利益	321 (23.0%)	328 (22.6%)	327 (21.5%)	274 (18.1%)	305 (21.4%)

四半期	USD	111円	111円	113円	108円	109円
平均レート	EUR	122円	130円	133円	133円	130円

設備投資と研究開発費

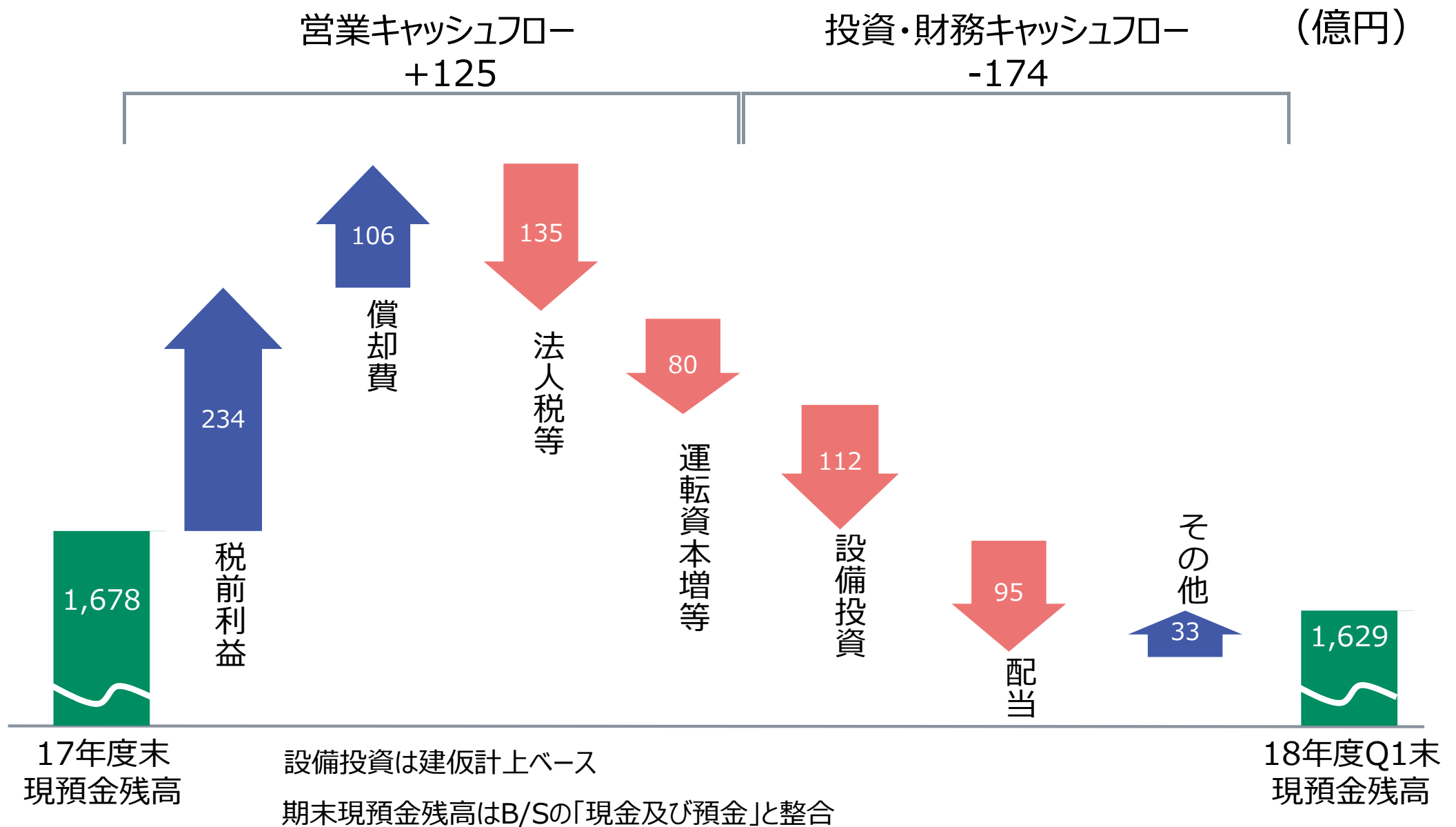


- 18年度は、増産設備、生産スペース、IT投資を拡大
- 17年度以降はIFRSベース
 - 買収以外の無形固定資産取得、開発費の資産化含む

- 主にカテーテル・ニューロ・血液の開発活動を促進
- 開発費の資産化は設備投資に含む

17年度 : 8億円
 18年度Q1 : 4億円
 18年度予想 : 21億円

キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	16	8	20
調整後営業利益	0	5	10

<参考> 10%変動時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	9	60	13	17	33

転換社債の状況

■ 社債明細 (2014年12月起債)

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	3,853	5,009	12.9百万株
2021年12月	500	0.0%	3,853	5,009	12.9百万株
計	1,000				25.9百万株

■ 転換状況 (2018年7月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	280.3億円(56.1%)	7.2百万株(1.91%)
2021年12月満期	35.3億円(7.06%)	0.9百万株(0.24%)
計	315.6億円(31.6%)	8.2百万株(2.16%)

➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

•自己株式の状況： 19.7百万株(2018年7月末時点、取得単価3,896円、発行済総数比5.1%)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。